

平成24年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	少年の主張大会	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	地域教育課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和60年度	根拠法令	—
性質区分	講座・育成	実施形態	地域との協働
対象者	小・中学生		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>青少年育成地区委員会と区教育委員会が共催し、明日の社会を担う少年の健全育成を図るため、小・中学生が自分の考えを主張としてまとめ、発表する機会を提供するために昭和60年度から「少年の主張大会」を実施している。</p> <p>開催方法は、小学生の部は地区予選会を18会場で行い、各予選会場から1人（40人以上は2人）が本大会に出場する。中学生の部は地区予選会を2会場で行い、各予選会場から3人が本大会に出場する。</p> <p>本大会は、小学生の部と中学生の部として実施し、それぞれ最優秀賞、優秀賞、入選の審査を行い、記念品を添えて表彰している。審査は、青少年育成地区委員会代表4人、小・中校長会代表2人、PTA連合会代表2人、区教育委員会職員2人で行っている。</p> <p>また、本大会出場者の中から希望者を翌年に開催される「中学生の主張東京都大会」に推薦しており、そこでは毎年優秀な成績を収めている。</p>		

2 施策及び事務事業意図

施策	名称	青少年育成
	意図	青少年のための活動機会が整い、活発に活動している。
事務事業意図		身近に起きている事柄に関心を向け、自分の意見や考えをまとめ、発表する機会を提供する。

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	21年度	22年度	23年度
参加者数	—	人	目標	600	600	600
			実績	592	544	541
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	21年度	22年度	23年度
参加学校数（小学校）	—	校	目標	49	49	49
			実績	49	48	49
参加学校数（中学校）	—	校	目標	24	24	24
			実績	17	18	17
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	21年度	22年度	23年度
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0	0
	その他	千円	0	0	0
一般財源 (a)		千円	2,461	2,427	3,114
支出	直接事業費 (b)	千円	841	807	714
	報償費	千円	277	277	255
	消耗品費	千円	346	344	314
	印刷製本費	千円	64	58	58
	食糧費	千円	13	12	12
	通信運搬費	千円	8	11	4
	筆耕翻訳料	千円	6	6	6
	使用料及び賃借料	千円	127	99	65
		千円			
	職員人件費 (c)	千円	1,620	1,620	2,400
	人件費	千円	1,620	1,620	2,400
		人	0.20	0.20	0.30
	再雇用職員	千円	0	0	0
		人	0.00	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0	0
	調整額 (e)	千円	140	180	270
	減価償却費	千円	0	0	0
金利	千円	0	0	0	
退職給与引当	千円	140	180	270	
(控) コスト対象外	千円	0	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	2,601	2,607	3,384

4 単位あたりコスト

項目	単位	21年度	22年度	23年度
単位の定義		延べ参加者数		
実績数値 (g)	人	592	544	541
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,157	4,461	5,756
単位あたりコスト (f/g)	円	4,394	4,792	6,255

平成24年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	少年の主張大会	担当部	教育委員会事務局
		担当課	地域教育課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>21年度は参加者数が592人と目標値の600人に近い数値であったが、その後は参加者数が減少している。この間の対象児童・生徒数の大きな減少はなかったため、同一の目標値を設定し続けてきたことは妥当であったと思われるが、実績が伴っていなかった。当面は対象児童・生徒数の減少が見込まれるため、実態を踏まえた目標値の再設定を行う。</p> <p>事業の運営については、区と青少年育成地区委員会との共催事業として、連携を密にしながら実施することができた。特に各地区の予選会では、区と青少年育成地区委員会と参加学校との連絡調整を図りながら進めたことにより、当日はトラブルも無くスムーズな運営ができた。また、本大会においても同様に進めることができた。</p>		
今後の方向性	改善	<p>募集要項に枚数規定を明記し、各小・中学校に周知しているが、地域教育課で形式審査（枚数の確認等）を行った結果、毎年何件か書類審査で落選し、発表まで至らないケースがある。</p> <p>今後は、ひとりでも多くの児童・生徒が発表の機会を得られるよう各小・中学校に周知の徹底を図っていく。</p>	
	継続		

「今後の方向性」に基づく取組内容

今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	24年度	25年度	26年度
			目標			
			目標			

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	24年度	25年度	26年度
				目標			
				目標			
				目標			
				目標			

行政評価委員会の意見や予算編成等の結果を踏まえ、年度末に記載し、区民に公表します。

平成24年度参加者募集

葛飾区少年の主張大会

1 応募資格

- 小学生の部 小学校5・6年生
 - 中学生の部 中学校1～3年生
- いずれも区内在住または在学の方

2 募集内容

学校生活や家族のことなどの身近な問題や、世の中のことで疑問に思うこと、体験を通して考えたことや、提案したいことなどを、
自分自身の意見・主張としてB4判 400字詰原稿用紙4～5枚にまとめてください。

なお、未発表の主張に限ります。



3 応募にあたって

- (1) 応募用紙に必要事項を記入し、応募作文と一緒に学校に提出してください。
- (2) 原稿は、原則として返却しません。
- (3) 原稿のはじめに、①題名 ②学校名 ③氏名を記入してください。

4 しめきり

平成24年9月7日(金) 地域教育課 必着 (区に提出するしめきり日です)

- ※ 学校にはこのしめきり日の前に、早めに提出してください。
- ※ しめきりを過ぎた場合や作文(発表原稿)の提出がない場合は受付できませんので、ご注意ください。

※裏面につづく
きりとり

葛飾区少年の主張大会 応募用紙(作文も同時提出となります)

氏名	ふりがな	学校名	学校
			学年 年生
住所	〒 -	自宅電話番号	()
題名			

※題名は作文の題名と必ず一致させること。

※ご記入いただいた個人情報は、主張大会以外での使用はいたしません。

5 日程

◇ 地区予選会

・小学生の部：平成24年10月20日（土）会場 区内13か所(予定)

ただし堀切地区委員会管内は10月13日（土）、お花茶屋地区委員会管内は10月21日（日）、青戸・新小岩北・西水元地区委員会館内は10月27日（土）に実施します。

・中学生の部： <金町会場> 10月20日（土）

<立石会場> 10月20日（土）

◇ 本大会

平成24年11月17日（土） 午後0時30分～（予定）

会場 かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール

6 審査について

主張の内容・態度・時間について審査します。

なお、発表時間内（3分30秒以上5分30秒以内）におさまらない場合は減点となりますので、ご注意ください。

7 その他

本大会出場者のうち小学6年生、中学1・2年生の方は、平成25年度の「中学生の主張東京都大会」に推薦させていただきます。

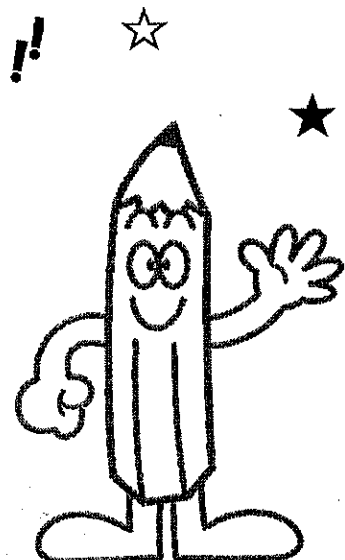
【申込み・問い合わせ先】

葛飾区教育委員会事務局 地域教育課 青少年育成係

〒124-8555

葛飾区立石5-13-1（区役所4階 407番窓口）

電話 5654-8482（直通）



※※※ 小学生の部 ※※※

最優秀賞

安全を最優先に

綾南小学校 六年 柳 美夢

三月の大地震の時、私達は教室のテレビで街をおそう津波を信じられない気持ちで見っていました。恐怖のあまりに言葉が出ませんでした。みなさんも同じ気持ちだったのではないのでしょうか。

私は、七月に岩手県の被災地をこの目で見ました。大船渡市街地、吉浜、越喜来、釜石、陸前高田を見ました。田んぼが雑草におおわれていて、なんとも言えないくさいにおい、360度がれきの山でとつてもこわかったです。

実際に行つてわかったことは、吉浜と越喜来は、全く同じ様な地形でとなり同士の集落なのに、被害が、全然ちがうと言うことです。なぜだと思えますか。

それは、吉浜が昔何度も津波におそわれていて、その教訓から当時の村長が、人々を高台に移転させたのです。だから今回の被害が少なかったのです。でも越喜来は、集落全体がめちやくちやで、行方不明者を含む二百人以上の人が、ぎせいになつてしまったのです。

吉浜の村長は、
「ここは、漁業がさかんだが、また、津波は来る。子孫のためにも不便だがぎせい者をふやすよりはいい。」

と、村人の反対を押し切つて、村人を安全な場所に移転させたそうです。

この決断は、吉浜の未来を大きく変えて、今回の津波から、人々を守つたのです。

ひいおじいちゃんの家が吉浜にあつたので、私は、小さいころから吉浜が大好きでした。今回の津波で堤防がこわされて、しばらく海であそぶことができなくなつたことは、残念ですが、被害が少なくて、本当によかつたと思います。

今、日本は原発問題になやんでいます。原発をこのまま使い続けるかどうかという事を。

私達日本は、とても便利な生活をしています。それは、原発で作られる電気のおかげでもあります。しかし、原発は今回のような事があると、とても危険だという事もわかりました。みなさんは、このような場合どうしたらよいと思いますか。便利だから原発を使い続けた方がよいと思いますか。それとも、ただたんふうさした方がよいと思いますか。

私は、原発ではなく、水力、風力、火力、太陽光など別の発電方法で電気を作つたらよいと思います。なぜかという、安全だからです。日本は、せまい国の中に原発が多いと聞きました。このままでは、いつ日本中の原発が福島のようになつてもおかしくはありません。これでは、不安がつづく一方です。

しかし、私達より福島の子供達はもっと不安だと思っています。『ひばくしてたらどうしよう。』『もとの生活にもどりたいよ。』と思つていのではないのでしょうか。東京でも安全とは言い切れないのですから。私は、原発に頼らない社会に少しづついつてほしいと思います。

昔、吉浜の人達の未来を思い、安全を最優先させた村長のように、私達も、便利だけではなく、安全かどうか考えた社会をつくつていくべきだと思います。

最優秀賞

勇気を出して伝えよう

中之台小学校 六年 和波 達哉

みなさんは、日本の未来がどうあつてほしいと思いますか？ぼくは、母の体験と、ぼくが実際に経験した二つのことから、考えたことをお話ししようと思います。

まず、母から聞いた、ぼくが母のお腹にいた頃の話です。当時、父の働いていた会社にフランスから、ヨアンさんという二十歳の留学生が、日本の企業について勉強に来ていました。日本が大好きなヨアンさんを、父と母で東京見物に連れて行った帰りの、電車の中での出来事です。母は妊娠七カ月、車内は少し混んでいて、座る場所はなく、立っていました。すると、ヨアンさんが座っていた20代の男性に、「この人、お腹に、赤ちゃん、います。かわって、下さい。」と、片言の日本語で、いつもの優しい雰囲気とは別人のように厳しく言いました。その男性は、「あ、どうぞ。」とあわてて席を立ち、母は席に座ったそうです。突然、外国人に席をかわるように言われた男性も驚いたと思いますが、母自身も今まで、「かわってください。」と、はっきりと言う人には出会ったことがなく、とても驚くとともに、尊敬したと言っていました。ヨアンさんは「フランス人は、みんな、席かわります。日本人は、かわらないのですか？」と不思議がっていたそうです。ぼくは、お腹の大きい母に気付き、大変そうだなと感じた人がいたと思います。でも、言葉に出せずにいたのではないのでしょうか。

次にぼくの体験から、こんなことがありました。ぼくがよく利用する、新御茶ノ水駅には、エスカレーターのない、長い階段があります。ある日、80代くらいのおばあさんが、両手に大きな荷物を持ち、

階段をゆっくりとのぼっていました。ぼくは、重そうだなと思い、「荷物持ちましょうか？」と言いました。でも、「あ、大丈夫よ。」と言われたので、手伝うことはしませんでした。ぼくは後から、おばあさんは、本当は手伝ってほしい気持ちがあつたけれど、遠慮したのかもしれないなと思いました。だから、一度断られても、あと一歩勇気を出して、「でも、お手伝いしますよ。」と伝えていたら、おばあさんは遠慮しないで頼めたのではないのでしょうか。

ヨアンさんには、日本人が冷たく写ったことでしょう。だから、シルバースーツに限らず、自分と同じ年代の人が座っていることに腹が立ったのかもしれない。でもぼくは、日本人は冷たいのではなく、「相手が迷惑かな。」と逆に遠慮して、言葉に出す勇気がない人が多いのだと思います。言葉にして伝えるということは、とても勇気がいることですが、日本の未来にとって、とても大切なことです。

一人一人が、相手が今どんな気持ちでいるのかを想像し、自然に優しい言葉をかけることができる世の中になれば、妊婦さんや、お年寄りなどみんなが住みやすい世の中になります。また、相手の心の痛みを想像すれば、いじめや虐待など起こりません。

そんな優しさにあふれた未来になるように、ぼくも相手の立場に立って考えることができ、自然に優しい言葉をかけられる人になります。勇気を出して気持ちを伝えることで、優しさにあふれた日本を、ぼくたちで作っていきましょう。

※※※ 中学生の部 ※※※

最優秀賞

傍観者ではなく、濁流に架かる橋のように

水元中学校 三年 石田 凌

When you're weary, feeling small
When tears are in
your eyes, I will dry them all
I'm on your side when
times get rough
And friends just can't be found
Like
a bridge over troubled water
I will lay me down.
Like
a bridge over troubled water
I will lay me down.

この歌は、僕が自分の無力さ、存在のちっぽけさを感じているときに英語の授業で出会った歌です。この歌は、いかなる時も仲間を支えるという力強い歌です。僕はこの意味を自分に問い掛け考えました。

さて、仲間を支えたり、信じ合うためにはと考えていた時、一つの言葉を知りました。「傍観者」です。意味は、何も手を出さずにそばでただなりゆきを眺めている人のこと。学校や街中で、この存在が多いのではないか、また、自分も傍観者になつてはいないだろうかと思ふようになり、自分には何が出来るだろうと考えるようになりました。そんな時、僕は二つの出来事が頭に浮かびました。最初の出来事はクラスでの話し合いのことでした。学級委員を中心に皆で意見を出し、まとめなければいけないのに、まず意見が出ないのです。「自分には関係ない、どうせ誰かが発言するだろう。」という顔で関係のないこ

とをして遊んでいる人がいました。学級委員は困っていました。僕もなかなか発言ができず、何もできない自分が情けなく嫌でした。今考えば、発言をして、クラスとしてまとまらなければいけなかったと思つています。ですがその時、学級委員や真剣に話し合いに参加している人から見れば、僕は単なる傍観者となつていたのです。

もう一つの出来事は道徳の授業でのことでした。僕が傍観者という言葉、存在を知ったのはこの日です。題材は「いじめ」。いじめについて先生はこのように話していました。「いじめはどんな理由があつたとしても、いじている側が悪い。けれど、周りにいる人達はどうかだろう。いじている側に対し、何も言わず何もせず、ただ見ているだけの傍観者にも罪があるんじゃないか。」この時、僕は両方の立場に立ったことがあると気づきました。とても恥ずかしい事ですが、いじめをしたこともあります。とても反省しています。もしも同じような場面に遭遇したら、目の前で苦しんでいる人を放っておける人間には絶対になりたくない、より強く思いました。また、歌の歌詞には「濁流に架かる橋のように」とあるように、仲間に手を差し伸べられる存在になりたいと思つたのです。しかし、いじめを一人で止めるのは大変だと実感したこともありました。いじている側に「やめなよ」と言つたものの、嫌な目で見られ、僕の放つた言葉は傍観者の中へと消えていったのです。さらに自分まで巻き込まれてしまうのではという不安もあります。では、どうすればよいか。こんな時こそ協力することが大切なのではないでしょうか。一見、止めに入る人がいなければ、周りの人達全てがいじめを認めているように見えますが、その中にはきっと「本当は助けてあげたいけれど勇気がない。」「周りの人に合わせていたけれどこのままじゃだめだ。」と思つている人がいるはずで、その人達と力を合わせることで、大きな力となり、その力が広がることで、傍観者は減っていく、これによつていじめは減っていくと思つたのです。

この二つの経験から、僕の意識が大きく変わっていきました。そんな時に、先ほど聞いてもらったあの歌、サイモンアンドガーファンクルの「Bridge Over Troubled Water」「明日に架ける橋」という歌に出会い、この歌詞に僕は心をうたれました。みなさん聞いてください。

「君が弱っていて自分を小さく感じる時、目に涙があふれるとき、僕がその涙をかかわしてあげよう。僕は君の味方だもの。どんなにづらいときでも、頼る友達が見つからないときでも、濁流に架かる橋のように、僕が身を横たえてあげよう。」

僕は傍観者ではなく、困っている人、苦しんでいる人に橋を架けてあげられる、優しい心と流されることのない強い意志を持った人間になれるように、強く、強く、生きてゆきたいです。



国立青少年教育振興機構理事長賞
家族の本当の意味

東京都葛飾区立常盤中学校 2年

齊藤 麗香

3月11日の東日本大震災で今現在15000人をこす死者、4000人近い行方不明者という数多い被災者がいる中、この震災で両親をなくした震災孤児と呼ばれる子供が200人以上いるそうです。震災孤児とは別に、様々な理由で親と一緒に暮らすことが出来ない子が全国で38000人いるそうです。その中の約一割の4000人が、里子として養育家庭に預けられています。私は4人兄弟ですが、私以外の3人はすべて里子です。だから、私の家族は血で結ばれた家族ではありません。血のつながりって、なんなのでしょう。家族とはなんなのでしょうか。

初めに来た里子は、私が小学校3年生の時に、1才で我が家に来てきました。来た時は、色白でじっとすわって、表情も乏しく、今現在の元気な妹とは別人のようでした。

妹が来た時、私が一番困ったことは、友達や知り合いに、「妹が里子だ。」ということ伝えることでした。やっぱり周りの人も、突然妹ができたのでおどろいたのではないかと思います。私もかくしてはおけないので説明すると、

「捨て子なの？」

とか、

「本当は赤の他人なんでしょう？」

などと言われてとても傷つきました。自分でも友達の理解を得ようと色々悩み「血がつながっていないと妹って言えないのかな。」などと考えてみました。ある日、両親に相談すると、

「こんなにかわいいんだし、こうしてこの子にめぐり会えたってことはあなたがこの子の姉になって何か役に立てる時が来るかもしれないんだから、血のつながりなんか関係ないの。自信をもって姉と言いなさい。」

と私をはげましてくれました。そんなことがきっかけで、自信をもって「私の妹だ。」と言えるようになりました。その時私は、

「血のつながりなんて関係ない。ただ一緒にご飯を食べたり、

お風呂に入ったり、一緒にテレビを見たり、たまにトランプをしたり。それだけで家族になれるんだ。」

と気付きました。一緒に生活することがどんなに大切か。今思うとこれこそが本当の家族に近づく方法なのではないかなと思います。

そして昨年末、新たに2人の里子がわが家に来てきました。初めに来た子とは違って両親の顔も名前も知っています。だから、来たばかりのときは「本当のママに会いたいな。」とか「本当のおうちに帰りたい。」などとつぶやいていました。でも今は私の両親のことをパパママと呼ぶようになり、とてもうれしく思っています。

以前、新聞のコラムで次のようなことが書いてありました。

「墓参りに行きふと駅伝を思い浮かべた。つなぐのはタスキではなく命である。この駅伝はやっかいなことに自分の意志でチームを選べない。リタイアも許されない。リレーを終えても次の走者が一人前になるまで伴走しなければならないし、弱り行く前の走者の介護が必要になることもある。しかもどこまで走り続けられいいのか走者にはわからない。」

という記事を読み「なるほどな。」と思いました。例え血のつながりがなくても、「人生」という命のタスキをつなぐ駅伝において、「家族」というチームでどんな困難にも立ち向かい、助け合い支え合いながら走り続けるチームワークを「家族の絆」と呼ぶのではないのでしょうか。家族の絆が強ければ血のつながりがなくても本当の家族と呼べると思いませんか。

この震災を通して私は、家族がそばにいてくれることが一番の幸せであり、絆を深めるための一番大切なことだと思いました。あたりまえようになってしまっている家族の大切さを多くの人に感じてほしいです。そして、虐待や悲しむ子どもがいない未来を私たちの手で作って行きたいです。

成果指標「参加者数」の内訳

○参加者数(小・中学生の合計数)

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
参加者数	688	580	592	544	541

※ 下記の(内訳)太枠内の合計

(内訳)小学生の部

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
参加者数	646	549	539	498	501
児童数(小5・6年生)	6,955	7,082	6,973	6,853	6,922

(内訳)中学生の部

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
参加者数	42	31	53	46	40
生徒数	8,870	8,709	8,886	8,856	9,108

○対象者

・小学生の部 5・6年生

・中学生の部 1～3年生